

「パブリック・コメント制度」提出意見に対する考え方

1 案件名	越前市環境基本計画（素案）について
2 実施日	平成19年6月15日～平成19年7月13日
3 趣旨	地球温暖化の進行や里地里山の荒廃、ごみ排出量の削減に歯止めがかからないなど、多様な環境問題への対応に迫られています。身近な環境を守り、次世代へ継承していくためには、本市に関わるあらゆる人々が、協働し、地球的視野に立って環境に優しい生活文化を創造していかなければなりません。 そこで、良好な環境の保全と創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、「環境基本計画」を9月末に策定します。
4 意見提出者数（件数）	22人（24件）

5 意見に対する考え方

【地球環境について】

	意見の概要	考え方・対応
1	<p>○「温暖化ストップ」と「経済」は両立しないと一般的に言われています。我が越前市は、それを両立させて、全国のお手本になって欲しい。本気で長期的な計画をたてて取組んで実現させて欲しい。</p> <p>○地球温暖化対策について、市民の関心を高めることが最も大切であり効果があると思う。自分の健康を守るうえからも、温暖化防止の為にできるだけマイカーを自粛し自転車の利用又夏をひかえ室内温度にも心をくばったり、 unnecessaryな電力を使わないなど、市民の関心度を高めるための運動を展開すること。環境政策で最も大切なことは、市民ひとり一人が関心を高める為に行政の立場でもどうしたらよいか考えていただきたい。</p> <p>○環境理念を根本から正す。『今、地球が危ない』の強烈なテーマをキャッチフレーズに揚げて欲しい。危機感を目覚めさせるような方策が必要</p>	<p>地球温暖化対策については、環境基本計画策定市民委員会等で積極的に議論がなされました。市の施策としてどのような取組ができるかを考えた場合、「家庭部門を中心に計画を推進することが有効である」と意見の集約がされ、各家庭や個人が取組める生活に直結した取組を中心に計画へ盛り込んでいます。</p> <p>なお、具体的には「二酸化炭素を減らそう」施策の展開の中で、温暖化防止の具体的な取組み（ノーマイカーデー・エコライフなど）を計画に盛り込んでいます。</p>

【生活環境について】

	意見の概要	考え方・対応
1	<p>○旧今立町粟田部地区～野岡町にかけての川の汚染が都会よりもひどい！和紙製造業者への指導およびフィルターなどを取り付けるための支援を行うこと、護岸工事をやり直し、自然と共生、すなわち生き物（動植</p>	<p>「安心して快適な生活環境を守るう」の施策の展開の中で、河川水質の保全や河川空間の保全の具体的な取組みとして、小規模事業所への支援、環境保全協定事業所の拡大</p>

<p>物)のすめるそして自然の浄化作用が働ける護岸にすることを政策として取り上げてほしい。緑を増やすために、たとえばコンビニなどを新しく建設した際には、一定スペースを緑化することを条例として制定してはどうか。</p>	<p>や親水護岸などの空間整備の推進などを計画に盛り込んでいます。</p> <p>新しく建設する小規模施設に、条例で制限を加えることは事業者の経営面から考えても非常に難しいと考えています。</p>
--	--

【自然環境について】

	意見の概要	考え方・対応
1	<p>○里山の整備の際には、その地域の植物をもっと活用し、地域の特長を生かした均一的でないものを望みたい。また、同時に外来植物(例、セイタカアワダチソウなど)を駆除する運動を積極的に展開してほしい。(雑草の駆除のための下草刈なども人の通路に限定し、整備のための経費節減と手間を簡素化すべき)</p>	<p>「生き物と共生できる環境を創ろう」の施策の展開の中で、地域の特性となる植物の把握と保全を計画に盛り込んでいます。外来植物の駆除についても、地域で生き物調査を行うなど、積極的に実施する必要があると考えています。</p>
2	<p>○里山だ、アベサンショウウオだと言いながら、未だ農薬を使用し、山を切り開き、杉の造林を行っている坂口地区を見ると、30年前の太陽の村、芝山造りとなんら変わらない。小さな湿原を残せば、ハッチョウトンボが、減っている生物がどんどん増えていく。ホタルはどこへ行ったのか? 小さい湿原を残せ、増やせ。野鳥も減っている。</p>	<p>里地里山の自然は人が手をかけ守ってきた自然です。何もしないでそのままにすることではなく、保全していく事が重要なことです。</p> <p>今、坂口・白山では、毎年一箇所ずつピオトープを増やす取組がなされており、そのような場所を増やしていかなければならないと考えています。</p>
3	<p>○病害中に弱い桜などをただ植えるのではなく、宮脇昭博士(6/4 武生にて公演)の提唱する土地本来の木(シイ・タブ・カシ)を防火、緑化のために少しでも多く植えてほしい。それらの木々は、3年の内は管理がいるが、それ以後は自らの力で森になっていくそうです。</p> <p>○田舎の集落では、イノシシ対策として電気柵を設置しているが、動物も生きる為に作物等を食い荒らす事は仕方が無いことでは? 人間と動物のかけ引きでなく、行政の施策によって、広葉樹を伐採し、杉、ひのき(針葉樹)を植樹したためである。もう一度山の奥へ広葉樹を植え、動物にも「えさ」を与える運動をしてはどうか? 行政と住民が一体になり(苗木=行政、植樹=住民)実施していきたい。水の保全にもなります。</p>	<p>自然豊かな魅力ある里づくり・まちづくりの中で、市民の自然環境保護に対する意識向上に努め、「里山の保全に努めよう」の施策の展開の中で、森林機能の維持と回復として、市民による森づくりの推進や広葉樹植樹の推進の必要性を計画に盛り込んでいます。</p>
4	<p>○「温暖化防止ができるピロールシステムの提案」</p> <p>一般廃棄物を焼却しない(炭酸ガスをださないし、燃料経費削減が可能)で、ピロール肥料に作り変えるこ</p>	<p>「環境にやさしい農業をしよう」の施策の展開の中で、有機農業・県認証特別栽培農作物の推進を計画に盛り込んでいます。</p>

<p>とによって、このピロール肥料を農家に安価に提供すれば、この農家所得の少なくなる時代に喜ばれる。その上、このピロール肥料は温暖化防止が可能な、ピロール農法理論に基づく。</p> <p>ピロール農法理論は、基本が30年前に寺島利夫農学博士によって福井で発見され開発され、のちに酒井弥博士によって理論化された農業技術であります。ピロール関連書籍も3冊発刊されています。著者はいずれも「北陸のエジソン」と称された酒井理化学研究所所長で理学博士の酒井弥理学博士であります。</p> <p>越前市で排出された廃棄有機物・・・生ごみ・学校給食残飯・家畜糞尿・し尿処理汚泥（一般廃棄物）・下水汚泥も一部可能・・・こういうもの全てが、ピロール肥料に作り変えることができますのであります。</p> <p>ぜひともこの福井で開発された、発見されたピロール技術を世界の環境改革に役立てていただきたいと念願するものであります。ピロールシステム事業は農業からはじまってまいりましたが、いまや環境技術としてダイオキシンも農薬も分解してくれ、水も浄化してくれ、炭酸ガスを出さないで、酸素を放出するという素晴らしい技術であります。カドミウム米対策にも効果が抜群ですし、酸性雨対策もOKなのです。</p> <p>現在の主流は有機物を醗酵分解して肥料化するシステムが、ほとんどですが・・・ピロール技術は、有機物を原料として使いながら醗酵させません。よって、肥料化するまでに醗酵させる過程ですでに炭酸ガスやメタンガスがでていきますし、土地に畑に水田に施肥すると醗酵分解する過程で、また炭酸ガスでるのです。このようなことがピロール技術ではおこりません。むしろ、炭酸ガスがでなくて酸素が出るわけですから、農作物の根の発育には最適なのであります。しかも、シアノバクテリアは、農薬なども分解するのでとても健全な農作物が収穫できるのであります。</p> <p>一石二鳥以上の効果が見込まれるのであります。そろそろこのピロール構想が必要な時代に入ってきたのではないかと考えましてこのたびの企画に同意し意見を述べさせていただきます。</p>	<p>数々の「農法」がある中でピロール肥料については、今後、農家の取り組みの経過と実績を見守る必要があると考えています。</p>
--	--

【資源リサイクルについて】

	意見の概要	考え方・対応
1	<p>○ごみについては、プラ仕分けの導入の際、ただ分け方の説明しかされず、市民としては処分場がどうなっているのか、自分たちの生活と関連付けができなかったと思う。処分場の現状をスライド等で見せるなり、見学ツアーをするなり、ゴミを減らさねば自分たちが困るのだ、と意識させることが大切だと考えました。みんなかんげーないと思っているから。</p> <p>○ゴミの捨て方に不透明なところが多々あります。毎年もらえる表でもわかりますが、より詳しく冊子とかあるといいのかなと？と毎週ゴミを捨てるたびに思ったりもします。</p> <p>○一人一人の意識と、行政の協力が大切なことから身近なごみの分別の徹底を図るため、行政が各町内(男・女)を回り指導してほしい。大運動にしなければならない。環境、金、意識全てにつながる。</p>	<p>施策分野(柱)の「ごみ減量に向けた都市づくり」の中で、市民・事業者一人ひとりがごみについて意識を持ち、ごみを出さないライフスタイルの確立に向け、ごみを減らすことを最優先として計画に盛り込んでいます。</p> <p>そのために、ご意見のように現状を住民に知らせていくことは重要であり、ごみの出し方をできるだけ詳しく・わかりやすくする努力をしていく必要があると考えています。</p> <p>また、市では「環境出前講座」、「ごみ減量化・リサイクル推進員」などを通じ、住民一人一人の意識改革を図っていきたくと考えています。</p>
2	<p>○道路でペットボトル、空き缶、その他が目立つが、道路わきにゴミ箱の高いものを各所に置き、車からでも捨てられるようにしてはどうか？</p>	<p>コンビニや高速道路のサービスエリアなどで、家庭ごみや車内のごみを捨てるのが問題となっているように、家庭ごみ等をそのようなゴミ箱に捨てるマナーの悪い人がたくさんいます。このような理由から公共の場所にごみ箱を置かず、ごみの持ち帰りすることが主流となっています。ごみ箱が新たな投棄場所になることが予想されますので、ご趣旨はわかりますが、道路わきのゴミ箱の設置は考えておりませんのでご理解願います。</p>
3	<p>○ゴミの燃焼方法を考えて、分別を少なくして欲しい。今の技術ならできるのではないですか？</p>	<p>技術的に可能ではありますが、今のごみ問題を考えれば、資源として有効利用することが重要と考えます。越前市で取組んでいる分別方法は、他市に比べて、高いリサイクル率を維持しています。住民の協力を得ながら、住民の許容範囲で分別することは、今後とも重要であると考えています。</p>
4	<p>○資源リサイクルの推進に力を入れてほしいと思います。特に携帯電話の回収率を上げるために、市の分別リサイクルに組み入れてほしいと思います。始めはなかなか集まらないと思うが続けてください。電話の回</p>	<p>基本施策「ものを大切に使う」、「資源をとことん利用しよう」の施策の展開の中で資源回収を推進していくことを計画に盛り込んでいます。</p>

	<p>収率を上げないともったいないと思います。貴金属は無敵ではありません。金はあと何十年でなくなると言われています。有限です。そして希少金属も高騰しています。中国、インドがどんどんこれから消費するから早まるでしょう。</p> <p>○古着類の回収が最近ありません。雑巾にしたりちょっと拭くのに使ったりもしていますが、どうしてもごみとして出すしかなく、燃えるゴミが多くなります。(いつもではないですが)古着類も工場などの雑巾としてリサイクルしている町もあると聞きました。1年に1度でも回収してもらえないでしょうか？</p> <p>○家庭で出る廃油の回収を行い再利用してほしい。各町内に回収場所を作るかゴミの日に専用回収缶を作るかすれば出すほうも出しやすい。複数箇所つくればもって行くと何か特典が付くようにすると集まるのではないのでしょうか。廃油の処理がどれだけ大事なことが伝えれば出してもらえそうです。</p>	<p>リサイクルの重要性は理解されながらも、回収されたペットボトルが海外に輸出されるようなことが起こっており、経済性を考えたリサイクルを考えざるを得ません。市として経済性を考え、できる範囲でのリサイクルを推進し、個々の政策で考えていく必要があると考えています。</p> <p>清掃センターに持ち込まれた古着類は、分別して工場用ウェス等として、再利用しております。今後、家庭から出される古着類についても回収・再資源化の検討が必要であると考えています。</p> <p>廃油回収は、原油の値上がりで経済性・環境の面からも有効な手段と認知されています。民間での事業化の動きもあり、市もできる範囲での協力は必要と考えています。</p>
5	<p>○空き缶をはじめ色々なごみを田、畑、空き地などにすてられ地主は迷惑しています。ぜひ罰則付きの条例を定めてください。ポイすてをなくすにはこれしかありません！！</p> <p>○犬の散歩、犬の汚物は自分で必ず始末し、環境の保全を守る。</p>	<p>基本施策「ごみを正しく処理しよう」の中で廃棄物の適正な処理の推進という形で計画に盛り込んでいます。</p> <p>不法投棄・ポイ捨てや犬の糞の問題は、人のモラルを醸成していくことが重要であり、市と市民が監視し、美化意識の普及を進めていくことが大切であると考えています。</p> <p>罰則付き条例の制定には、実効性を考慮すると多くの解決すべき問題があり、非常に難しいと考えています。</p>

【環境教育・環境行動について】

	意見の概要	考え方・対応
1	<p>○環境教育は先ず一般成人の意識改革から。より望ましい自然環境、社会環境、生活環境について、一般成人が具体的行動をどのように取るべきか。更に広く、深く追求していく市民運動を行政が強力に支援すること。市民の理念が重要なポイントとなる。</p> <p>水・緑・大気の保全を基本とした越前市全体の将来像を市民が共有するような具体策を推進する。やる気のある市民をしっかりと支援していくこと。自治振興会連</p>	<p>施策分野(柱)の「環境共育によるひとづくり」の施策の展開の中で、市民の環境活動の育成、支援やリーダーの重要性についてしっかりと認識し、計画に盛り込んでいます。</p> <p>本計画の推進にあたっては、市民、市民団体、事業者と協働で取組みを進めていきたいと考えております。</p>

<p>絡会等が参画して、市民版の環境全体計画が策定できるといいと思います。ポイントはリーダー。</p>	
---	--

【その他】

	意見の概要	考え方・対応
1	<p>○昨年、鯖江市・越前市、両方の環境フェアを見に行き、両市の環境に対する取組みの差が歴然と出てびっくりしました。ゴミ分別に関してもそうですが、基本計画とか決まりを作る前に、市民の環境に対する意識を高めることの方が大切なのではないのでしょうか？</p>	<p>環境教育により市民の意識を高めていくことが重要であり、その施策を実行していきたいと考えています。</p> <p>本市におけるごみの分別収集や資源回収の実施状況をみますと市民の意識は、大変高くなってきております。</p>
2	<p>○地球温暖化により災害が何時発生するかわかりません。吉野瀬川の対策は万全を期しているか再調査する必要があります。道路の補修ばかりやらないで、税金を河川に向けるべきである。日野川の河川の中に木がたくさん生えているのは万が一のとき安全か調べてほしい。避難場所は安全か再検する必要がある。地球はあと1000年しかもたないそうです。行政をしっかりする。</p>	<p>平成19年2月に策定された、今後20～30年間の河川整備の基本となる「九頭竜川水系 日野川ブロック 河川整備計画」によれば、吉野瀬川は概ね30年に1回程度の確率で発生する降雨による洪水を安全に流下させ、沿川の家屋や公共施設等の浸水を防止するため、吉野瀬川下流部に放水路を新設するとともに、上流部にダムを建設する計画となっております。</p> <p>また、日野川の河道内の樹木等につきましては、繁茂状況を把握するとともに、洪水流下の阻害となる場合には、鳥類をはじめとした動物など周辺の河川環境への影響を十分に考慮したうえで適正な維持管理を行っていき、河川管理者である県よりお聞きしています。</p>
3	<p>○いつもの事ながら（国、県、市）のやり方は体裁の良い歌い文句をならべるだけ。市が日本に先駆けて○年○月から我々の家庭から出る買い物袋（ビニール袋）いずれは液体、固体は自分の容器をもって行かなければ買えない・・・厳しい市政しなければそうしなかつたらいつまでも同じ事を繰り返しているだけ。人類が生かされているのは宇宙で只一つ地球しかない、いつかは破滅すること請合い。環境は待ってくれない・・・又他の県、市も越前市を見習いに来よう。出来る出来ない、するしないは市長の心腕次第で、歌い文句で終わらない様に！又日本を愛し、我が郷土を</p>	<p>「ごみを減らそう」の施策の展開の中で、買い物袋の持参、ばら売り、量り売りなど個々の施策として盛り込んでいます</p> <p>ご意見のように、環境は待ってくれません。個人の意識に大きな差があり、意識改革を進めることが最初に取り組むべき課題であると考えています。</p> <p>環境と生活が、均衡の取れた社会にしていく事が重要であり、住民一人一人が自分にできることを実践していくような働きかけが必要と考えています。</p>

<p>愛しているならばまずもって我々の家から、市から始めるべきである。</p> <p>○一瞬大変困難で既達成は無理だが、最低でも 30 年前の状況に戻す。勿論できることから、確実に実施へ。便利と環境悪化は比例することが多いからだ。様々な集会での飲み物は、ペットボトルや紙パックでなく湯飲みやコップに、イベント用器は瀬戸物など洗って使えるものを、食品の買い求めには容器、ラッピング用新聞を持参する。弁当は既製でなく手作りで、など。使い捨て購入は避けよう・やめよう。砂利道は重要保存。目的地への集会は 1 人 1 台ではなく乗り合わせる。核家族減らし運動の実施。</p>	
---	--